



2019年度 福知山公立大学

北近畿地域連携センター 年次報告書



センター長あいさつ

北近畿地域連携センター長 杉岡 秀紀



北近畿地域連携センターは、2016年の開学以来、教育研究の成果を積極的に地域社会に発信すると共に、地域からの相談窓口としての機能を担い、地域と協働して地域課題に取り組むことを目的に活動を展開し、今年度で4年目を迎えました。今年度の事業を振り返ってみますと、大きく3つの挑戦がありました。

1つは、これまでの開学記念連続講演会、北近畿地域連携シンポジウムの流れを受け創設した「北近畿創生フューチャーセッション」です。本事業では、京都府北部の5市2町から構成される京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会との共催が実現し、福知山市・京丹後市・舞鶴市・与謝野町の4地域で毎回トピックなテーマを設定し、兵庫県北部地域からの講師やコメンテーターも招請しながら、これまでの一方的な講座とは違う「対話型の場づくり」に挑戦しました。また、これらの企画を進めるなかで、公立図書館や地元コミュニティFM、地元ケーブルテレビも巻き込んだPRを展開出来たのも小さな挑戦と言えます。

2つは、総務省の「関係人口創出・拡大事業」モデル事業です。この事業は本学だけでなく、この間取り組んで来た「まちかどキャンパス事業」で関係性が出来ていた福知山市・朝来市・丹波市との3市連携により総務省の事業に応募し、その採択を受け、本センターが企画・運営の事務局を務めました。本学としては国の事業を受託する初めての挑戦になり、都市部の大学や3市に在住する中高生・大学生や3市内の高校の地縁型関係人口、そして本センターが事務局を務める北近畿地域連携会議を巻き込んでの大プロジェクトへの挑戦にもなりました。加えて、学内でも企画プロジェクトチームとアンケートプロジェクトチームができ、本センターの委員以外の教員にも多く参画いただいた点、コーディネーターを務めてもらった皆さんに本センターの連携研究員としても参画頂いた点なども新たな挑戦となりました。

3つは、「宮津わかもの会議」です。この事業は当初はセンター主導のまちかどキャンパス事業として始まりましたが、今年度からは学生主導の事業として学生たちに任せるという大きな挑戦（決断）をしました。大学からの直接支援がない分、学生たちは学内の補助金（学生プロジェクト）や宮津市大学等連携事業補助金など外部資金も獲得しつつ、第2回わかもの会議を夏に独力で開催。そして、秋以降もそこから生まれた3つのプロジェクトを実施しながら、年度末に活動報告会を開催したほか、宮津市の新総合計画のワークショップに参加したり、京都大学の学生たちとも交流を行ったりと、学生による地域連携活動を積極的に展開してくれました。また、この事業については元宮津市長であり、本学の井上正嗣特命教授にアドバイザーとして伴走頂きました。

次年度は新学部のスタートや大学全体での機構改革により、また新たな挑戦が待っていますが、まずは本報告書で4年目を迎えた本センターの挑戦の一端をご覧いただければ幸いです。



目次

北近畿地域連携センターの概要	1
北近畿創生フューチャーセッション	3
第1回 健康長寿の地域づくりの未来	
第2回 高齢ドライバーと地域交通の未来	
第3回 多文化共生と防災の未来	
第4回 地域コミュニティと自治の未来	
北近畿地域連携会議	11
2019年度 地域研究プロジェクト	13
(北近畿地域連携センター研究助成)	
福知山公立大学と包括協定締結団体との定期協議会	15
2019年度 まちかどキャンパス事業	17
(福知山市・丹波市・朝来市連携事業①)	
2019年度 まちかどキャンパス事業	19
(福知山市・丹波市・朝来市連携事業②)	
2019年度 まちかどキャンパス事業(宮津市連携事業)	22
総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業	25
北近畿地域連携センター関連事業アンケート集計結果	28

北近畿地域連携センターの概要

●北近畿地域連携センターの概要

北近畿地域連携センターは、地域からの相談窓口としての機能を担い、地域と大学とが協働して地域課題に取り組む体制を構築することに加え、教育研究の成果を積極的に社会へ発信する機能を充実させることを目的に設置されました。

また、2017年度からは地域住民と本学の教職員、学生が交流できる拠点として「Kita-re」（読み方：きたーれ）を開設しています。「Kita-re」には、北近畿地域連携センターの略称として「北近畿」の「きた」と「連携」の「れ」をつなげると共に、地域の皆さんに広く来てほしいという「来たーれ」という意味が込められています。また、アルファベットで「Kita」の後に「re」をハイフンでつなげた部分には、何度でも来てほしいという意味あいも込めています。



●北近畿地域連携センターの主な4つの事業

①地域連携に関する相談窓口・教員紹介・組織連携

- 相談窓口
- 教員紹介・事業マッチング
- 協定締結等の調整・情報交換 など

②K i t a - r e の運営

- コワーキングスペースの利用窓口
- C o - L a b. スペースの利用窓口
- カフェスペースの運営 など

③地域連携事業の企画・情報受発信

- 講演会、シンポジウム等の企画・運営
- 高大連携事業の企画・実施
- 北近畿地域に関する情報の受発信 など

④北近畿地域に関するシンクタンク業務（調査・研究・提言）

- 北近畿地域連携会議の事務局
- 地域研究プロジェクト
- 共同研究の企画・実施
- 受託研究の窓口 など

●北近畿地域連携センターの運営体制について

・センター長：杉岡秀紀（准教授）

委員：岡本悦司（教授／地域経営学部長）、神谷達夫（教授／メディアセンター長）、
鄭 年皓（教授／国際交流センター委員会委員）、江上直樹（助教／実践教育
専門委員会委員長）

・連携研究員：足立 渉（京都北都信用金庫常勤理事）

小澤七洋（「関係人口創出・拡大事業」モデル事業コーディネーター、元京都
工芸繊維大学COCコーディネーター）

久保友美（龍谷大学博士研究員、「関係人口創出・拡大事業」モデル事業コー
ディネーター）

滋野浩毅（京都産業大学現代社会学部教授、「関係人口創出・拡大事業」モデ
ル事業コーディネーター）

・事務局：竹友良成、外賀豊樹、賀田秀樹

・北近畿地域連携会議：富野暉一郎（事務局長／福知山公立大学副学長）



◆アクセス、問い合わせ先

福知山公立大学「Kita-re」

京都府福知山市字堀3370 福知山公立大学2号館1階

TEL:0773-24-7151 FAX:0773-24-7152

E-mail:kita-re@fukuchiyama.ac.jp

第1回 北近畿創生フューチャーセッション

健康長寿の地域づくりの未来

(京都府北部地域連携都市圏生涯学習講座)

- 2019年6月29日(土) 14～17時 ■市民交流プラザふくちやま 市民交流スペース
- 参加者 40人
- 講演者 小林憲彦氏(福知山市健康医療課)、田村浩司氏(ウェルストーク豊岡理学療法士)
- ファシリテーター 杉岡 秀紀(福知山公立大学北近畿地域連携センター長)
- コメンテーター 岡本悦司(福知山公立大学 地域経営学部医療福祉経営学科教授)
- 主催/共催: 福知山公立大学、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会、福知山市立図書館中央館

(概要)

本企画は、圏域やセクターを超え、北近畿地域で共通する課題(テーマ)に関心を持つ者が集い、北近畿地域内(京都府・兵庫県)のスピーカーなどからの話題提供により、課題解決のための方策を参加者全員で検討する場所やコミュニティを創造するものである。第1回は「健康長寿の地域づくりの未来」をテーマに、福知山市健康医療課の小林憲彦氏、ウェルストーク豊岡理学療法士の田村浩司氏からの話題提供を受け、参加者全員でフューチャーセッションを行った。なお、フューチャーセッションとは、新たな価値を創造するため、多様な価値観をもつ人々が対等な立場で未来志向で議論し、交流を深める場のことで、異なる価値観、立場の方々が交流することを通して、新たな知恵を創造し、新規事業の芽を見出していくことを目標としている。

第1回のコメンテーターは本学地域経営学部の岡本悦司教授にお願いし、全体のファシリテーターは本学の杉岡秀紀北近畿地域連携センター長が務めた。

(田村氏プロフィール)

平成7年 公立八鹿病院リハビリテーション科入職後、老人保健施設・訪問リハビリテーション等、主として介護保険分野のリハビリテーションに従事。平成25年 日光診療所 訪問リハビリテーション、平成28年9月より現職。

担当業務: 豊岡市委託事業である「通所型介護予防事業」を主に担当し、市内各地域の健康福祉センターに出向き事業参加者への運動指導を実施。その他、豊岡市の自主組織活動支援事業として依頼のあった地区に出向き健康づくりの為の講話も行っている。

小林氏は、福知山市が進める「データ分析による健康づくり」をテーマに、まず健康寿命をデータに基づいてどう測定するか、という方法論について説明した。健康寿命の測定法には、アンケートによる自己評価法もあるが、福知山市ではより客観的な「介護保険による要介護認定を受けていない期間」と定義し、要介護認定率を評価指標として活用しているとした。また健康寿命延長のための活動として、まず福知山市に配備されている国保や後期高齢者のレセプトや特定健診データを含む国保データベース(KDB)を分析した結果、京都府平均、舞鶴市、綾部市と比較して、福知山市は「高血圧性疾患」の患者が多い傾向(国保被保険者の65～74歳の被保険者においては、60%近くが生活習慣病で医療機関を受診し、その中でも「高血圧症」の患者が多い)にあることが判明した。市は、高血圧に対する関心を高めるキャンペーンをしているが、どうしても無関心層があり、関心有と無の比率は3:7という割合がみ



られる、とのことであった。その結果、キャンペーンによって関心層は健康状態が改善する一方、無関心層の悪化をくいとめることができず、結果として「市民内の健康格差の拡大になってしまっていること」が悩みとのことであった。

次いで登壇した田村氏は、豊岡ウェルストーク（ストークとはこのとりの意）という名称の健康増進施設の活動について講演した。ウェルストークは 2010 年に元公立豊岡病院の跡地に設置され、指定管理者としてコナミスポーツ社に経営委託されている。ウェルストークは市から以下のような事業を受託している。

- 低体力高齢者介護予防事業「はつらつチャレンジ塾」
- 通所型介護予防事業「からだ元気塾」
- 特定保健指導
- 生活習慣病予防支援
- 人材派遣業務
- 糖尿病治療中者運動指導事業

このうち最後の糖尿病治療中者に対する運動指導事業は、糖尿病の重症化予防（ひいては腎不全による透析の予防につながる。透析医療費は一人年 500 万円にものぼるので医療経済的効果は大）を目的とするものである。対象者は、糖尿病治療中者で特定健診を受診した結果、HbA1c6.5% 以上の者であって、レセプトデータより受診中でない者を抽出して受診を勧奨し、治療開始しだした者のうち豊岡公立病院を受診中に者について、主治医が合併症の有無を検討し、合併症有の者は日高医療センターが、そして合併症無の者（重症化予防の効果が最も期待できる）についてはウェルストークが、6 か月に及ぶ運動指導を含む生活習慣改善の指導を提供する、というものである。このようにウェルストークは単なるコナミスポーツクラブとは異なり、糖尿病治療中者について医療機関と連携しつつ医師の指導の下に、ちゃんとカルテも作って運動指導を行っている。これにより、腎不全への以降を抑制するので、健康寿命の延長につながる。

福知山、豊岡両市のとりくみの報告は、福知山が高血圧、豊岡が糖尿病と、対象疾患や取組はやや異なるとはいえ、地域ぐるみの生活習慣病対策である点が共通しており、健康寿命延長への具体的な活動の報告として示唆にとむものであった。



第2回 北近畿創生フューチャーセッション

高齢ドライバーと地域交通の未来 (京都府北部地域連携都市圏生涯学習講座)

■2019年10月28日(土) 14~17時半 ■峰山地域公民館1階大会議室

■参加者 46名

■講演者 東恒好氏(NPO法人「気張る!ふるさと丹後町」の理事)

岡山慎氏(養父市 企画総務部 国家戦略特区・地方創生課主事)

■ファシリテーター 杉岡秀紀(福知山公立大学北近畿地域連携センター長)

■コメンテーター 富野暉一郎(福知山公立大学 副学長)

■主催/共催: 福知山公立大学、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会

〔概要〕

本企画は、圏域やセクターを超え、北近畿地域で共通する課題(テーマ)に関心を持つ者が集い、北近畿地域内(京都府・兵庫県)のスピーカーなどからの話題提供により、課題解決のための方策を参加者全員で検討する場所やコミュニティを創造するものである。第2回は「超高齢社会の地域交通の未来」をテーマに、NPO法人「気張る!ふるさと丹後町」の理事の東恒好氏、養父市 企画総務部 国家戦略特区・地方創生課主事の岡山慎氏からの話題提供を受け、参加者全員でフューチャーセッションを行った。なお、フューチャーセッションとは、新たな価値を創造するため、多様な価値観をもつ人々が対等な立場で未来志向で議論し、交流を深める場のことで、異なる価値観、立場の方々が交流することを通して、新たな知恵を創造し、新規事業の芽を見出していくことを目標としている。

第2回のコメンテーターは本学の富野暉一郎副学長が行い、全体のファシリテーターは本学の杉岡秀紀北近畿地域連携センター長を務めた。

(東氏プロフィール)

NPO法人「気張る!ふるさと丹後町」の理事(広報担当)。

間人ガニ(タイザガニ)で有名な京丹後市丹後町間人(たいざ)の出身。大阪の会社にて都市計画コンサルタントとして自治体の公共交通やまちづくりの計画策定に従事してきたが、定年退職を機に生まれ故郷に戻り、当NPOに参画。そこで「ささえ合い交通」の実現に当初から関わり、ドライバーもしながら今日まで運行管理に携わってきている。

当日の参加者は市外・関係者も含めて46名であったが、非常に高い関心を持つ参加者が多く、高齢化が進む地域の公共交通を守ることが北近畿地域共通する切実な課題であることが実感される場であった。会場には高齢者とともに大学生や高校生などの若者も参加した。過疎化・高齢化が進む北近畿地域における新たな地域交通システムの具体的な試みについて学び、情報共有及び地域課題の解決に向けた議論が活発に行われた。

まずNPO法人「気張る!ふるさと丹後町」の東恒好専務理事から、京丹後市丹後町で実践されているUber(ウーバー)のアプリを使い、乗りたい人と地元ドライバーをマッチングするライドシェア型公共交通「ささえ合い交通」の実践事例につい



て詳細な報告が行われた。次に養父市企画総務部国家戦略特区・地方創生課の岡山慎氏から兵庫県養父市の「やぶくる」（新たな自家用有償運送事業）の取り組みについて、国家戦略特区制度の規制改革メニュー「過疎地域等での自家用自動車の活用拡大」を活用したタクシー会社との共同によるコミュニティ公共交通システムの事例報告を行った。その後フューチャーセッション形式で、事例報告をもとに参加者による意見交換が行われた。

最後に富野暉一郎学長より、時代における地域公共交通システムの重要な役割と、現状の法体系や社会的条件による課題や限界などについてコメントがあり、閉会した。



第3回 北近畿創生フューチャーセッション

多文化共生と防災の未来

(京都府北部地域連携都市圏生涯学習講座)

- 2020年2月1日(土) 13～16時半 ■舞鶴市西駅交流センター
- 参加者 42名
- 講演者 岸田尚子氏(NPO法人にほんご豊岡あいうえお副理事長)
鳥居文子氏(NPO法人舞鶴国際交流協会生活相談部会長、MIAにほんご教室責任者)
- ファシリテーター 杉岡秀紀(福知山公立大学北近畿地域連携センター長)
- コメンテーター 渋谷節子(福知山公立大学地域経営学部教授)、
鈴木暁子氏(京都府立大学京都地域未来創造センター上席研究員／一般財団法人ダイバーシティ研究所客員研究員)
- 主催/共催: 福知山公立大学、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会
- 後援: 京都府立大学京都地域未来創造センター

〔概要〕

本企画は、圏域やセクターを超え、北近畿地域で共通する課題(テーマ)に関心を持つ者が集い、北近畿地域内(京都府・兵庫県)のスピーカーなどからの話題提供により、課題解決のための方策を参加者全員で検討する場所やコミュニティを創造するものである。第3回は「多文化共生と防災の未来」をテーマに、NPO法人にほんご豊岡あいうえお副理事長の岸田尚子氏、NPO法人舞鶴国際交流協会生活相談部会長の鳥居文子氏からの話題提供を受け、参加者全員でフューチャーセッションを行った。なお、フューチャーセッションとは、新たな価値を創造するため、多様な価値観をもつ人々が対等な立場で未来志向で議論し、交流を深める場のことで、異なる価値観、立場の方々が交流することを通して、新たな知恵を創造し、新規事業の芽を見出していくことを目標としている。

第3回のコメンテーターは本学地域経営学部の渋谷節子教授と京都府立大学京都地域未来創造センター上席研究員の鈴木暁子氏にお願いし、全体のファシリテーターは本学の杉岡秀紀北近畿地域連携センター長が務めた。

(岸田氏プロフィール)

平成9年から平成24年まで豊岡市において豊岡市国際交流協会の国際交流及び草の根活動に携わる。台風23号では外国人住民の対応を行う。平成25年からNPO法人にほんご豊岡あいうえおにおいて、外国人住民の支援を行う。

(鳥居氏プロフィール)

舞鶴市から受託している多文化共生事業担当。2018年度より文化庁の地域日本語教育スタートアッププログラムのコーディネーター(2年目)。

当日はまず、岸田尚子氏から「日本語教室からはじまる多文化共生のまちづくり」と題して豊岡の国際交流協会や日本語教室が災害時の外国人支援を行ってきた歴史的な経緯の紹介があった。岸田氏のお話からは、現在のNPOの活動が日本語教室にとどまらず地域の外国人の生活支援など多岐にわたり、そうした活動を通じたコミュニティづくりが災害時にも役に立つことがわかった。



続いて鳥居文子氏より「多文化共生って楽しい!」と題して話題提供があった。鳥居氏のお話からは舞鶴国際交流協会が語学教室、多文化共生事業、日本語教室、文化交流事業などを行い、その中で地域のネットワーク作りや外国人市民をサポートするサポーターの育成がされていること、そして、それらが災害時には外国人のセイフティネットになっていることが理解できた。

後半は、お二人の話題提供を受け、参加者全員でフューチャーセッションを行った。

各グループで共通していたのは、日頃のコミュニケーションが大切だという認識であった。また、キーパーソンを決めておく、自治体が主体となる、外国人にも避難訓練に参加してもらう、外国人を雇用している企業と連携するなど、日頃から地域の関係性やシステムを作っておくことの重要性が指摘された。

最後に京都府立大学の鈴木暁子上席研究員と本学の渋谷節子教授からコメントがあった。

鈴木暁子氏からは、韓国の事例の紹介などがあり、国、自治体、NPO、地域住民が一体となって、地域コミュニティをデザインする重要性が指摘された。渋谷教授からは、日本人と外国人の間に入ってミディエーターとなれる団体や人材の重要性についてのコメントがあった。

全体を総括すると、地方でも外国人住民が増える中、防災という視点から、どのような支援が必要であり、どのようなことができるのかを NPO 活動の実績から学び、参加者それぞれが自分の立場で考える機会になり、市民がつくる多文化共生社会の構築に向けた一歩になった。



第4回 北近畿創生フューチャーセッション

地域コミュニティと自治の未来

(京都府北部地域連携都市圏生涯学習講座)

■2020年2月22日(土) 10~13時 ■与謝野町生涯学習センター知遊館2階あじさいホール

■参加者 54名

■講演者 役重眞喜子氏(岩手県立大学総合政策学部講師)

山崎政巳氏(与謝野町岩屋区長)

■ファシリテーター 杉岡秀紀(福知山公立大学北近畿地域連携センター長)

■コメンテーター 井上正嗣(福知山公立大学特命教授/元宮津市長)

馬袋真紀氏(朝来市市長公室総合政策課長補佐兼創生企画係長)

■主催/共催: 福知山公立大学、京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会

(概要)

本企画は、圏域やセクターを超え、北近畿地域で共通する課題(テーマ)に関心を持つ者が集い、北近畿地域内(京都府・兵庫県)のスピーカーなどからの話題提供により、課題解決のための方策を参加者全員で検討する場所やコミュニティを創造するものである。第4回は「地域コミュニティと自治の未来」をテーマに、岩手県立大学総合政策学部講師の役重眞喜子氏、与謝野町岩屋区長の山崎政巳氏からの話題提供を受け、参加者全員でフューチャーセッションを行った。なお、フューチャーセッションとは、新たな価値を創造するため、多様な価値観をもつ人々が対等な立場で未来志向で議論し、交流を深める場のことで、異なる価値観、立場の方々が交流することを通して、新たな知恵を創造し、新規事業の芽を見出していくことを目標としている。



第4回のコメンテーターは元宮津市長で本学の井上正嗣特命教授と朝来市市長公室総合政策課長補佐兼創生企画係長の馬袋真紀氏にお願いし、全体のファシリテーターは本学の杉岡秀紀北近畿地域連携センター長が務めた。

(役重氏プロフィール)

千葉県出身、東京大学法学部卒。農家研修で出会った岩手県東和町の人と牛に魅せられ、平成5年農水省を退職、定住。東和町・合併後の花巻市で教育次長、地域づくり課長、総務課長等を務め、24年に早期退職後は岩手大学大学院で行政と地域コミュニティ関係を研究し、博士号取得。花巻市コミュニティアドバイザーを経て、平成31年度より現職。各地コミュニティ組織の支援のほか、地元で“東和農旅”活動を立ち上げ、地域資源を活かした交流事業や若手育成に取り組んでいる。著書に『自治体行政と地域コミュニティの関係性の変容と再構築(コミュニティ政策叢書)』(東信堂、2019)、『ヨメより先に牛がきた』(2001年NHKドラマ化)など。月刊『地上』(家の光協会)のエッセイ「ふるさとづくり」連載中。

(山崎氏プロフィール)

昭和57年与謝野町岩屋で建築業・山政建築を起業。平成15年に山崎総建に社名変更。平成21年から農業分野へ事業拡大する。地域では区役員や農事組合長など歴任。平成29年から岩屋区長(3年目)。

当日はまず本学の杉岡秀紀北近畿地域連携センター長から、フューチャーセッションの趣旨説明及び第4回のテーマである「地域コミュニティと自治の未来」について、特に自治会・町内会の定義や役割、統計データに基づく現状と課題について問題提起があった。

次に岩手県立大学総合政策学部講師の役重眞喜子氏から自己紹介、東和町（現花巻市）における火事や葬式を例にコミュニティの定義、「面識社会・定住社会」の必要性、平成の合併後の空間軸・時間軸の変化からみるコミュニティの変容、地域愛をベースとした「小さな経済循環・小さな創意」の必要性、地域に飛び出し、楽しみながら交流人口や関係人口を増やせる市町村職員に変わらなければいけない重要性などについて話題提供があった。

続いて、与謝野町岩屋区長の山崎政巳氏から岩屋地区の概要、地域内団体の概要、「するかしないかではなく、いつするか」「愚痴をどうすればプラスに変えられるか」という考え方のベースとなる岩屋文化（根性）の存在などについて話題提供があった。

お二人の話題提供を受け、元宮津市長で本学の井上正嗣特命教授と朝来市市長公室総合政策課課長補佐兼創生企画係長の馬袋真紀氏から簡単な講評があり、後半の1グループ6人×6グループに分かれフューチャーセッションに入った。テーマは①「どうすれば地域コミュニティと自治体との楽しくよりよいいつながり方ができる？（創意）」、②「どうすれば「地域に入る職員」や「愚痴ではなく前を向いて『やってみよう』という住民」を増やせる？」、③「どうすれば地域の負担を減らせる？」の3テーマのいずれか一つを選んでもらう形式とした。

60分のフューチャーセッション後、それぞれグループから2～3分ずつで対話した内容の発表があった。①「どうすれば地域コミュニティと自治体との楽しくよりよいいつながり方ができる？（創意）」について「ライフスタイルもいろいろ、価値観もいろいろだが、楽しんで地域活動をするのが大切」といった意見やアイデアが寄せられた。②「どうすれば「地域に入る職員」や「愚痴ではなく前を向いて『やってみよう』という住民」を増やせる？」については、「（役員の）負担を減らす」「公民館を空ける」「廃校を活用する」「目立つイベントをする」「ヒト・カネを区長会として支援する」といった意見やアイデアが寄せられた。③「どうすれば地域の負担を減らせる？」については「外からの関係人口、移住者を増やす」「地域内の団体の行事・会議をスリム化する」「毎月の組長交代する（伊根モデル）」「お祭り・運動会などをきっかけに非会員へもアプローチする」「地域団体の法被などにより地域の魅力向上する」「頑張りすぎない」といった意見やアイデアが寄せられた。

6グループの発表を受け、井上正嗣特命教授からは「祭りが復活した地域もある。地域の夢・希望・目標が今後ますます重要になる」、朝来市市長公室総合政策課課長補佐兼創生企画係長の馬袋真紀氏からは「1人の百歩より100人の一歩が大事。行事の複合化も一案。そのためにも対話の場づくりは欠かせない」との講評があった。

最後に岩手県立大学総合政策学部講師の役重眞喜子氏、与謝野町岩屋区長の山崎政巳氏から一言ずつ感想があり、閉会した。



北近畿地域連携会議（事務局：北近畿地域連携センター）

〔概要〕

第2期（2019–2020 年度）における当会議の活動は、第1期の成果を踏まえつつ、会員の主体的な活動と会員間の連携を強化することによって本会議における活動の基盤を強化すると共に、地域社会の課題に密着した調査研究活動を展開することを通じて、地域社会の持続的な発展と魅力ある地域社会の創出に寄与する活動を推進することとしている。

2019 年度は、以下2つの研究会（うち1研究会は2分科会を設置）を組織した。また、新たに外部の研究組織との研究連携のための研究グループも設置した。

（研究会①）「北近畿地域における新たな交流・交通システムの導入による経済的・社会的影響に関する研究会」

- ・第1分科会：ビッグデータを活用した周遊型観光圏の研究（略称：周遊型観光圏研究会）
- ・第2分科会：北近畿地域における公共交通システムの新たな展開に関する研究（略称：公共交通システムの展開研究会）

（研究会②）北近畿地域における地縁型関係人口に関する意識の分析研究会（略称：地縁型関係人口研究会）」

（連携研究）

「北近畿地域における SDGs を踏まえたコンパクトシティ構築への提言策定にかかる連携研究」



なお、上記研究会とは別に、福知山公立大学が企画・主導して福知山市・丹波市・朝来市の3市が申請した総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業が採択されたことを受け、その事業の一環として3市の高等学校との連携により高校生・その保護者及び卒業生の郷土意識に関するアンケート調査が実施され、この結果が研究会②に提供された。



(研究会①-1) ビッグデータを活用した周遊型観光圏の研究 (略称: 周遊型観光圏研究会)

	第1回研究会 (2019年8月20日)	第2回研究会 (2019年11月7日)	第3回研究会 (2020年1月28日)
議 事 内 容	①研究代表の提起 ②研究計画の報告と協議 *データ収集方法に関する意見交換 *観光関係既存アンケートの提供依頼 ③第1期研究内容の報告センサーデータ以外のデータに関する分析について ④会員向けアンケートの素案提示	①研究代表の決定 ②既存の観光客向けアンケート調査の報告 ③アナログデータとデジタル化されたデータとの組み合わせによる分析について ④伊根町のアンケート調査における観光パターンの分析結果報告 ⑤パケットセンサーデータを使ったディープラーニングとロジスティック回帰分析の試行報告	①総務省「関係人口創出拡大事業」モデル事業にかかる観光客向けアンケート調査の暫定集計結果(報告) ②テキストマイニングによる解析と時系列分析について(報告) ③会員アンケートの回収について ④研究成果のとりまとめについて

(研究会①-2) 北近畿地域における公共交通システムの新たな展開に関する研究 (略称: 公共交通システムの展開研究会)

	第1回研究会 (2019年8月26日)	第2回研究会 (2019年11月19日)	第3回研究会 (2020年2月1日)
議 事 内 容	①研究代表の提起 ②研究計画の報告と協議 ③研究会の運営方針について ④会員向けアンケートの素案提示	①研究代表・研究副代表の決定 ②MaaSの全体像と本会議の研究テーマとの関係について(報告) ③丹海交通におけるバス事業の状況と課題(報告) ④公立大学における検討状況 ⑤京都北都信金における行員の口コミ情報とマーケット(報告)	①研究代表の決定北近畿におけるバス3社による協議会と活動内容(報告) ②北近畿地域における観光型MaaSと北近畿地域連携会議について ③地域情報の収集とMaaSとの関連付けについて ④会員アンケートの回収について ⑤研究成果のとりまとめについて

(研究会②) 北近畿地域における地縁型関係人口に関する意識の分析研究会 (略称: 地縁型関係人口研究会)

	第1回研究会 (2019年7月30日)	第2回研究会 (2019年11月8日)	第3回研究会 (2020年2月2日)
議 事 内 容	①研究代表の提起 ②研究テーマの確定 ③総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業について情報提供 ④在校生・保護者・卒業生への意識調査票の案について ⑤会員向けアンケートの素案提示	①研究代表の決定 ②総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業の意識調査分析について	①総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業の在校生と保護者向けのアンケート集計の暫定的分析結果(報告) ②同卒業生向けアンケートの実施状況(報告) ③観光客向けアンケートの暫定分析結果(報告) ④会員アンケートの回収について ⑤研究成果のとりまとめについて

※研究会の会場は、原則として全て福知山公立大学北近畿地域連携センター(kita-re)で開催した(公共交通システムの展開研究会の第3回研究会のみ男女共同参画センター(ハピネスふくちやま)で開催)。

2019 年度 地域研究プロジェクト

(北近畿地域連携センター研究助成)

【概要】

地域連携型の教育研究活動及び地域貢献を促進するため、地域・企業が抱える課題に対して本学が有する「知」を活用する機会を創出することを目的に今年度も地域研究プロジェクト（北近畿地域連携センター研究助成）を実施した。具体的には「自由テーマ」と近畿地域連携会議が取り組む研究テーマとの関連性があることを申請条件とする「指定テーマ」で公募・審査を行い、採択が決まった研究に助成を行った。本年度は4件のプロジェクトが採択された。

【採択結果一覧】

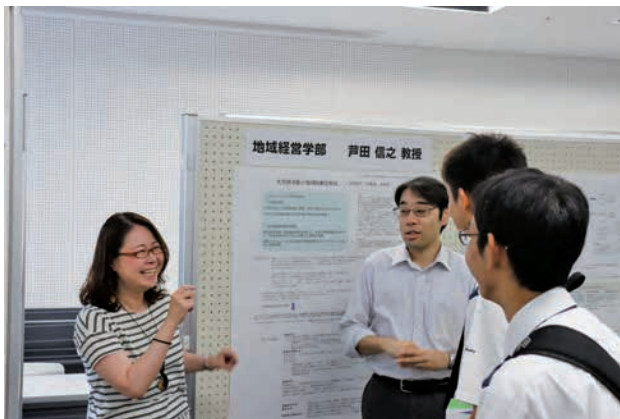
(敬称略・順不同)

申請者	共同研究者	テーマ	研究題名	決定額 (千円)
鄭 年皓	三好 ゆう	自由テーマ	大河ドラマ「麒麟がくる」の放映が福知山および北近畿地域における地域活性化に与える影響に関する研究	200
山田 篤	神谷 達夫	自由テーマ	機械学習型人工知能を用いた安価な農作物の選別システムの構築	195
神谷 達夫	岡本 悦司	指定テーマ (公共交通システムの展開研究会)	高精度衛星測位を用いた自動車運転技能確認の研究(2)	247
佐藤 充	①神谷 達夫 ②江上 直樹	指定テーマ (周遊型観光圏研究会)	北近畿地域におけるデータ駆動型の観光地域経営に関する研究	275

〈2018年度地域研究プロジェクト（北近畿地域連携センター研究助成）成果報告会〉

7月13日に福知山市市民交流プラザにて、昨年度実施した7つの地域連携プロジェクトの成果報告会を実施した。本年度は、「参加者と研究者との交流の場を創出する」ことに主軸を置き、ポスターセッションによる発表とした。その結果、参加者から多くの質疑や感想、提案など自由に発言しやすい場となった。

日程	場所	テーマ	参加者数
7月13日	福知山市市民交流プラザ3階 3-2・3-3会議室	2018年度地域研究プロジェクト（北近畿地域連携センター研究助成）成果報告会	26名



福知山公立大学と包括協定締結団体との定期協議会

- 第1回：事務担当学会議 ■2019年10月4日(金) 15時～17時
 ■福知山公立大学北近畿地域連携センター (Kita-re) Co-Lab. スペース
- 第2回：代表者会議 ■2020年3月19日(木) 17時～19時 ※ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
 ■福知山公立大学北近畿地域連携センター (Kita-re) Co-Lab. スペース

〔概要〕

今年度の定期協議会については、①事務担当学会議と②代表者会議の2回に分けて、開催することとした。

（①事務担当学会議）

事務担当学会議については、17の包括協定締結団体の事務担当の方に集まっていただき、本学の地域連携状況を共有するとともに、本学の地域連携課題についてワークショップ形式で意見交換、情報交換してもらうことを目的とした。

（②代表者会議）

代表者会議については、17の包括協定締結団体の代表者の方に集まっていただき、本学の地域連携状況について意見交換、情報交換してもらうと共に、外部から大学による地域連携の学びを深めるための講師（共愛学園前橋国際大学・大森昭生学長）を招請し、先進事例から学ぶ場も設けることを狙いとした。ただし、新型コロナウイルス感染防止のため本会議は中止となった。

〔実施内容〕

（①事務担当学会議）

事務担当学会議については、2019年10月4日（金）15時～17時に福知山公立大学北近畿地域連携センター（Kita-re）Co-Lab. スペースで開催した。包括協定締結団体17団体のうち10団体の事務担当及出席があり、本学からは富野暉一郎副学長、岡本悦司地域経営学部長、杉岡秀紀北近畿地域連携センター長、江上直樹実践教育専門委員長ほか事務局が参加した。

当日は、まず岡本悦司学部長から開会の挨拶があり、次に杉岡秀紀北近畿地域連携センター長から「本学の地域連携の取組状況(報告)」と題して報告を行った。具体的には、大学の基礎情報、大学の理念、大学の沿革、地域連携の取り組み（教育・研究・地域貢献）について事例を踏まえて報告があった。その後、参加者との質疑応答を行った後、「来年度の情報学部開設を見据え本学の地域連携に期待することとは？」というテーマで3グループに分かれての、ワークショップ形式で意見交換した。最後に富野暉一郎副学長から総括と挨拶があり、閉会した。

（②代表者会議）

代表者会議については、2020年3月19日（木）17時～19時に企画されていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止された。



2019 年度 まちかどキャンパス事業

(福知山市・丹波市・朝来市連携事業①)

令和元年度 福知山公立大学と福知山市・丹波市・朝来市内の高等学校との高大連携研究会

第 1 回：生徒が主語となる総合的な探究のポイントー自ら学ぼうとする高校生の育成のためにー

■2019 年 8 月 27 日（火）17 時～19 時 30 分 ■市民交流プラザふくちやま会議室 4-1 ■27 人

■講演者 荒瀬克己氏（大谷大学文学部教授）

第 2 回：「探究」を経験した学生は大学・社会でどのように成長するのか

ー初等中等教育から社会人へのトランジション（移行）と教員の役割ー

■2020 年 2 月 25 日（火）18 時～20 時 30 分 ■兵庫県立柏原高等学校 柏陵会館 1 階会議室 ■22 人

■講演者 滋野哲秀氏（龍谷大学文学部教授／京都教育大学大学院連合教職実践研究科教授）

■司会者 江上直樹（福知山公立大学 助教）※第 1 回・第 2 回いずれも

■講評 杉岡秀紀（福知山公立大学地域連携センター長）

■主催 / 共催：福知山公立大学（第 2 回については兵庫県立柏原高等学校との共催）

【概要】

福知山市・丹波市・朝来市の三市連携事業の一環として、前年度に引き続き北近畿地域連携センター主催で「福知山市・丹波市・朝来市高大連携研究会」を開催した。これは、京都府南部および兵庫県南部と比較し教員研修への参加が難しい北部地域の教員に対し、研修の機会を提供するという地域貢献の意味合いに加え、高大共通の教育課題について高校教員と大学教員とが共に検討し教育実践の改善を図る研究プラットフォームの構築を目指すことをその趣旨としている。

2019 年度第 1 回研究会では、大谷大学の荒瀬克己教授をお呼びし「生徒が主語となる総合的な探究」をテーマに、Society5.0 をふまえたキャリア教育の考え方、新学習指導要領における主体的・対話的で深い学びの考え方、新科目としての「探究」のあり方等について解説いただき、その後、参加者と意見交換を行った。2019 年度第 2 回研究会では、龍谷大学の滋野哲秀教授をお呼びし「『探究』を経験した学生は大学・社会でどのように成長するのか」というテーマで、高校における探究学習の経験の有無で大学の学びにどのような違いが出てくるのか、探究学習における授業ツール等について解説いただいた。その後、事例報告として柏原高校の丹生憲一教諭より高校における探究学習の実践について発表いただき、参加者同士の意見交換を行った。各回の内容については、以下に概説する。

【第 1 回】

新しい学習指導要領では、「総合的な探究の時間」をはじめとして、「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」等の科目が新設され、探究学習の重要性が増している。また、北近畿地域の高校においても、地域を題材とした探究学習に力を入れようとしている学校も多く見受けられる。このような現状の中で、探究学習を体験することが、今後の社会に必要とされる力とどのようにつながるのかという観点について、京都市立堀川高校の校長時代に探究学習にいち早く取り組み、「堀川の奇跡」と呼ばれ全国から注目を集めた荒瀬克己先生をお呼びし、研究会を開催した。

講演では、まず、Society5.0 においては「一人一人が学び続け、自分の人生をデザインし、キャリア発達を続けることが求められる」とした上で、そのキャリア（人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割や価値や自分との関係を見いだしていく連なりや積み重ね）を構築していくにあたっては、「主体的・対話的で深い学び」が重要であるとし、新学習指導要領が目指そうとするあり方について解説が行われた。また、探究学習におけるカリキュラムマネジメントにあたっては、生徒の現状や学校の現状を把握して目標を設定することが重要であり、教科・総合的な探究の時間・HR 活動・学校内外での生活のそれぞれにおいて「どのような力を身に付けるために何を

どうするか」を定義し共有する必要があるといったことが述べられた。

以上の話題提供の後に、研究会の参加者同士のグループワークとして、自分たちが所属している高校における探究学習の課題について情報共有を行った。グループ内で様々な意見が出されたが、時間設定の関係上、出された意見について余裕をもって共有することはできなかったこともあり、アンケートにおいて「各学校が事例を発表しあう機会を作ってほしい」という意見があげられた。現状では、本研究会の設計として外部講師による講演が中心となっているが、参加者同士が情報を交換し、意見を出し合う場としての設計が望まれる。



【第2回】

新しい学習指導要領においては探究学習が重要視されるものの、探究学習の経験が実際に高校卒業後にどのように役に立つのかという点については、教育現場において十分に共有されているとはいえず、教育実践を進める上で教員が不安を持つ部分でもある。そこで、第2回研究会では、京都府立桃山高校の校長として自然科学科の立ち上げなど、高校における探究学習の実践者であるとともに、大学における初年次教育の研究者でもある滋野哲秀先生をお呼びし、研究会を開催した。



講演では、「Cloth/Cross Board Learning」といった探究学習における教育ツールとその実践例の紹介、高校時代に探究学習を体験した学生と体験しなかった学生で大学の授業でどのような反応の違いが出ているか、探究学習と大学入試とのつながりなど、実際の教育現場における現状の情報をふまえながら探究学習において重要となる様々な概念について解説が行われた。講演の後は、事例報告として柏原高校の丹生憲一教諭より柏原高校における「TAMBA Mirai Project」の実践について報告が行われるとともに、講演・事例報告の内容をふまえてグループワークによる参加者同士の意見交換を実施した。意見交換においては、各高校の現状に関する様々な情報交換が行われたが、その中でも「高校の特色を表すような探究学習の科目名の設定」「教職員全体を巻き込んだ指導体制のあり方」が特に関心ある事項として取り上げられた。

実施後のアンケート結果を見ても、非常に高い満足度を示していたが、今後の取組みの要望として、「各校の総学担当者が集まってカリキュラムについて意見交流したい」「実践例を発表しあえる会をお願いします」「小中高大の探究活動をつなぐ（知る）」といったように、各学校における教育実践の現状や課題について情報共有・意見交換をしたいというものが見られた。次年度の研究会の設計として、第2回で行った事例報告のような時間をより充実させ、参加者同士の交流の中で「研究と修養」が行えるようなあり方を検討したい。



2019 年度 まちかどキャンパス事業

(福知山市・丹波市・朝来市連携事業②)

①丹波市議会☆ミライブプロジェクト

～2019 年度 夢を語ろう 未来へ～

②山東地域サードプレイス協力事業 (学生プロジェクト「あさごの時間」)

～中高生のための学びのサードプレイス支援～

①■2019 年 7 月 27 日 (木) 13～16 時 ■兵庫県立氷上高校 ■55 名 (丹波市議会議員 19 名、氷上高校生 21 名、本学学生 15 名 (教員含む))

■講演者 杉岡秀紀 (本学北近畿地域連携センター長)

■司会者 西本嘉宏氏 (丹波市議会議会運営委員長)

■コメンテーター 林時彦氏 (丹波市議会議長)、大森秀一郎氏 (兵庫県立氷上高等学校校長)

■主催 / 共催: 丹波市議会、福知山公立大学 (北近畿地域連携センター)

②■2019 年 10 月～2020 年 3 月 ■山東生涯学習センター ■4 名

■主催 / 共催: 学生プロジェクト「あさごの時間」

〔概要〕

①丹波市議会☆ミライブプロジェクト)

本プロジェクトは、2 年前に丹波市議会から本学に協力要請があり、議員と将来のまちの担い手である若者の主権者 (高校生・大学生) の対話の場づくりということで開催している。昨年度の兵庫県立柏原高校との連携協力により柏原高校生との対話が実現したが、今年度は兵庫県立氷上高校との連携協力により氷上高校生と対話した。また、この間に本学と丹波市では包括協定を締結するに至り、大学としては、これまでの北近畿地域連携センターの 3 市連携事業という枠組みに加え、大学と包括協定市における教育分野における連携プログラムとしての位置付けも色濃くなった。議会としては、引き続き丹波市議会基本条例に基づく丹波市議会の「広報広聴機能」の充実、開かれた議会の実現というミッションである。なお、当日の様子は、7 月 20 日に朝日新聞、7 月 28 日に丹波新聞に掲載された。

(スケジュール)

13 時 15 分～開会挨拶 (林時彦丹波市議会議長、大森秀一郎氷上高校校長)

13 時 30 分～講演『関係人口って何だろう?』(福知山公立大学・杉岡秀紀センター長)

14 時 15 分～グループワーク「丹波市の氷上高校 OB を活用した関係人口を増やすアイデア」

15 時 30 分～全体共有、講評 (丹波市議会議長、柏原高校校長、杉岡秀紀センター長)

16 時～ 終了、アンケート、解散

当日は、林時彦丹波市議会議長、大森秀一郎氷上高校校長から開会挨拶を頂いた後、まず本学の杉岡秀紀北近畿地域連携センター長から「関係人口って何だろう?」と題した講演があった。その後、1 グループ 7～8 人 (議員 2～3 名、高校生 3 名、大学生 2 名) で 7 グループに分かれて 75 分間対話を行った。テーマは「丹波市の氷上高校 OB を活用した関係人口を増やすアイデア」とした。その後は 7 グループ全体で共有し、林時彦丹波市議会議長、大森秀一郎氷上高校校長、杉岡秀紀北近畿地域連携センター長から講評があった。昨年度は「主権者教育」を全体テーマに取り上げが、今年は「関係人口」を全体テーマとして取り上げた。その狙いは、①地方創生の第 2 弾に「関係人口」が注目されていること、②本学が福知山市・朝来市・丹波市との協働により総務省の「関係人口創出・拡大事業」モデル事業を受託展開したこと、③丹波市は住民基本台帳の人口より本籍地人口が約 3.5 万人多く、関係人口の伸びしろがあることが背景にある。本事業の成果は、①議会 (議員) は日頃なかなか聞くことができない「若者」「よそ者」の意見が聞くこ

とができたこと、②高校（生）は、一番身近な政府である自治体議会あるいは議員の頑張る姿、また少し先に行くお兄さんお姉さんのような大学生の意見を知れたこと、③大学生にとってはファシリテーションという難しい役割をこなしながらも、隣町である丹波市の住民の考えや意見に触れることで「丹波」あるいは「北近畿」という視点から自ら関わる町との比較視点を得られたことにある。いみじくも 2020 年は、大河ドラマ「麒麟が来る」で丹波全体が盛り上がる年となる。一方で、若者（10 代）投票率がこの 3 年で最低となるなど、若者の政治はますます進み、選挙教育に留まらない主権者教育、シティズンシップ教育の必要性が高まっている。その意味では、本プロジェクトのような参加者全員にメリットがあるような機会を地域総動員で仕掛け続ける必要があるだろう。

（②山東地域サードプレイス協力事業（学生プロジェクト「あさごの時間」）

本事業は、地域経営演習Ⅲの継続事業で、学生プロジェクト自主ゼミ「あさごの時間」として展開された。具体的には、山東地域において朝来市が展開する「中高生のための学びのサードプレイス（家でも学校でもない第三の居場所）」への協力である。メンバーはゼミ生の有志 5 名により結成され、基本的には毎週水曜日の放課後に実施されている「中高生のための学びのサードプレイス」に大学生有志が参加したり、コーディネーター（山東地域・生野地域）や梁瀬中学校の先生方、生野地域のサードプレイスに関わる兵庫県立大学生と意見交換したりという活動を行った。また、11 月 9 日には毎回 100 名を超える参加者を集める「あさご未来会議」、11 月 16 日には本学主催の関係人口創出・拡大モデル事業「ふるさとを生きるワークショップ in 朝来編」にもメンバーが参加した。加えて、3 月 4 日、11 日には大学生主導企画（カードゲーム・ボードゲーム、お菓子作り）を計画した。しかし、この企画については新型コロナウイルス感染症対策による一斉休講で中止となった。詳細は以下の通りである。

旧山東町、とりわけ梁瀬地区については昨年度より地域経営演習の一環に関わり始め、1 年目については学生プロジェクトの結成及び、小冊子「みんなでつくるやなせ AtoZ」の発刊で結実した（<https://www.fukuchiyama.ac.jp/news/9130/>）。2 年目についても基本的には枠組みは昨年度と同様となったが、テーマをより具体的に踏み込み、「中高生のための学びのサードプレイス（家でも学校でもない第三の居場所）」への協力事業とした。この事業は朝来市が注力する「ASAGOING」事業の一環であり、昨年度からフィールドワークに協力頂いている梁瀬地域自治協議会の事務局職員である中島英樹氏がコーディネーターを務めるということで実現した。また、これまでの北近畿地域連携センターの 3 市連携事業という枠組みに加え、①この間に本学と朝来市では包括協定を締結するに至り、大学との包括協定市における教育分野における連携プログラムとしての位置付けも色濃くなったこと、②本学が福知山市・朝来市・丹波市との協働により総務省の「関係人口創出・拡大事業」モデル事業を受託展開していることも相まって、様々な関連事業にも良い意味での相乗りをしながら展開できた点に今年度の特徴と一定の成果を見出せる。他方で、「中高生のための学びのサードプレイス」が開催されている水曜日の放課後はメンバーの講義受講日と重なり、全てのプログラムには参加できなかった。また 3 月に大学生が主導した企画については新型コロナ



ウイルス感染症対策による一斉休講で中止となった。これらについては次年度以降に積み残した課題としたい。



2019 年度 まちかどキャンパス事業 (宮津市連携事業)

第2回「宮津わかもの会議」

①第2回：2019年8月10日(土) 10時～17時 ■37人

②活動報告会：2020年2月22日(土) 15時～17時半 ■25人

■宮津市福祉・教育総合プラザ3階 第1コミュニティールーム

■主催 / 共催：「宮津わかもの会議」実行委員会、福知山公立大学（北近畿地域連携センター）、宮津市

■協力：特定非営利活動法人 TEAM 旦波

〔概要〕

(第2回宮津わかもの会議)

■2019年8月10日(土) 10時～17時

■宮津市福祉・教育総合プラザ3階 第1コミュニティールーム

内 容：以下の通り

1. 開会挨拶

一井愛哉（第2回宮津わかもの会議実行委員会実行委員長 / 福知山公立大学2回生）

2. 首長対談「市長・町長と考える宮津の未来」

対談者：城崎雅文氏（宮津市長）、山添藤真氏（与謝野町長）

聞き手：濱田祐太（関西学院大学法学部4年生 / ローカルフラッグ代表取締役社長）

3. 若者鼎談「わかものと考ええる宮津の未来」

鼎談者：岩田直樹氏（公立鳥取環境大学大学院修士2年生）、山元翔吾（本学地域経営学部3年生）、
杉本優人（実行委員 / 本学地域経営学部1年生）

聞き手：高原望乃（実行委員 / 本学地域経営学部3年生）

4. グループワーク

5. 共有・まとめ・全体発表

6. 講評

井上正嗣（本学特命教授 / 元宮津市長）、杉岡秀紀（本学
北近畿地域連携センター長 / 地域経営学部准教授）、

岩田直樹氏

(第2回宮津わかもの会議活動報告会)

■2020年2月22日(土) 15時～17時半

■宮津市福祉・教育総合プラザ3階第1コミュニティールーム

内容：以下の通り

1. 開会

一井愛哉（第2回宮津わかもの会議実行委員長 / 本学2回生）

2. 活動報告（宮津わかもの会議実行委員会）

(1) みやづ AtoZ プロジェクト、(2) 宮津与謝野交流プロジェクト、(3) 上宮津プロジェクト

3. 話題提供

森下航平氏（京都大学地域振興研究会 / 京都大学総合人間学部1回生）

4. 講評

井上正嗣（本学特命教授 / 元宮津市長）、杉岡秀紀（本学北近畿地域連携センター長 / 地域経営
学部准教授）



宮津出身の若者たちの多くは、大学進学等を機に宮津を離れてしまうため、宮津で就職する人は少ない。高校生を含めた若者世代が地域活動になかなか関わっていない現状があり、地域への関心や愛着が低いことが原因の1つと考えられる。

そのような問題意識の下、「宮津市に関心のある若者世代が、宮津市の未来を描き、それを達成するために自分たちには何ができるのかを考え、行動に繋げる」ことを目的に、2018年度より宮津市出身の福知山公立大学の学生が中心となり「宮津わかもの会議」実行委員会が立ち上がり、活動に取り組んでいる。



今年度は大学内の学生プロジェクトにも採択され、昨年度開催された第1回「宮津わかもの会議」で決定した「30の宣言」をブラッシュアップすることを目的に、2019年8月10日に第2回「宮津わかもの会議」を宮津市福祉・教育プラザで開催。当日は高校生から社会人まで27人の若者が参加した（全体の参加者は37人）。内容は城崎雅文宮津市長と山添藤真与謝野町長による対談からスタート。コーディネーターは実行委員であり関西学院大学法学部4年生／ローカルフラッグ代表取締役社長の濱田祐太氏が務めた。第2部は公立鳥取環境大学大学院修士2年生の岩田直樹氏、本学3年生の山元翔吾、本学1年生で実行委員の杉本優人による鼎談があり、本学1年生で実行委員の高原望乃が務めた。後半は6チームに分かれ、第1回宮津わかもの会議の30の宣言を深掘りするグループワークを実施。6チームの発表後、ゲストの岩田直樹氏、元宮津市長で本学の井上正嗣特命教授、本学の杉岡秀紀北近畿地域連携センター長の講評があり、閉会した。なお、この模様は8月11日の京都新聞にも掲載された。

夏以降は、第2回で生まれたアイディアを実現すべく、実行委員会の企画会議及びプロジェクト活動がスタート。具体的には、(1) みやづ AtoZ プロジェクトチーム、(2) 宮津与謝野交流プロジェクトチーム、(3) 上宮津プロジェクトの3つのプロジェクトチームごとに活動を展開した。(3)については、宮津市大学等連携事業補助金に採択され、「広報みやづ」の2月号でも特集記事が組まれた。2020年2月22日には、半年間それぞれのグループで行ってきた活動成果を報告するための「第2回宮津わかもの会議活動報告会」を宮津市福祉・教育プラザにて開催。当日は高校生から社会人まで25人が参加した。内容は、本学2年生で実行委員長の一井愛哉の挨拶、城崎雅文宮津市長の激励メッセージの後、まず宮津わかもの会議実行委員会から活動報告があった。具体的には、(1) みやづ AtoZ プロジェクト、(2) 宮津与謝野交流プロジェクト、(3) 上宮津プロジェクトの3プロジェクトをそれぞれの活動内容をプロジェクトリーダーが報告した。その後、宮津わかもの会議実行委員会と同じく宮津市大学等連携事業補助金に採択された京都大学地域振興研究会の森下航平氏ら3名からの話題提供があった。最後は本学の井上正嗣特命教授、杉岡秀紀北近畿連携センター長の講評があり、閉会した。なお、この模様は2月26日の京都新聞に掲載された。

その他、宮津わかもの会議実行委員会では、1月末から市が開催している「新宮津市総合計画策定に向けてのタウンミーティング」にも参加しているほか、2月22日夜には上宮津プロジェクトの一環で「上宮津わかもの会議」も開催した。



(参考) 宮津わかもの会議ホームページ

<https://miyazuwakamonokaigi.jimdosite.com>

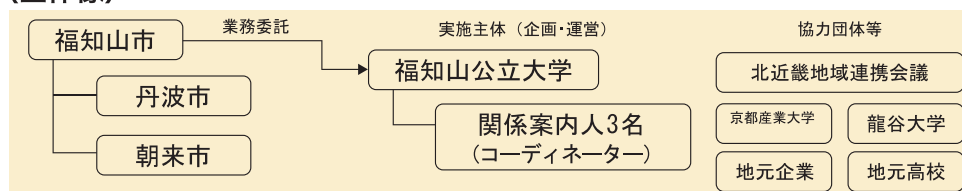


総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業

〔概要〕

地方における人口の減少、とりわけ若者の流出に対して、各地方自治体は若者を地域につなぎ止め、IUJターンによる人口の流入を増やすための教育政策・産業政策・地域政策に多くの努力を費やしてきた。しかしながら、限られた、しかも減少局面にある日本の総人口というパイを都市と地方、地方と地方で奪い合う、いわゆる定住化促進政策は結果として都市間の格差を拡大するものであり、その限界については多くの指摘がなされている所である。また、これまでも世界に開かれた観光や通勤・通学などによる都市間の人口移動などを含む「交流人口」や、別荘生活や情報化の進展と高齢社会化など生活スタイルの多様化による2拠点居住など、法律上の住民の概念では括り切れない「新たな人口（住民）」概念が登場している。それら定住人口と交流人口に大別されてきた人口概念を、人口減少時代における持続可能な地域政策形成の視点から再編し、新たに地域社会に対して能動的な活動を行う主体としての「関係人口」とりわけ地縁型関係人口を組み入れた政策体系を構築することにより、地方自治体における地域社会の維持と発展を体系的に図ることが求められていると言える。今回取り組んだ地縁型関係人口を切り口とする「ふるさと・もう一度（都市在住地縁者の心につなぎと再生を）プロジェクト」は、国の関係人口創出・拡大モデル事業として、減少しつつある日本の総人口という限られたパイに拘束されない地域活性化のための人口政策の一つのモデルを構築として企画された。これまでの関係人口関連政策では、一般に都市在住者を対象に様々な手法を駆使して地方との関係性を構築し、交流人口を創出することがその事業の内容である。それに対して今回取り組んだプロジェクトでは、地方に住む中高生たち及び地方の高校の卒業生たちという識別可能なターゲットを設定し、そのターゲットに対する働きかけと調査により、都市に流出した若者が関係人口として地域社会を支える仕組みの創出の可能性を体系的に検証することを目的としたところに新規性がある。

（全体像）



（概要）

実施事項	5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
1 ふるさと再発見ツアー							広報			★																							
2 中高生たちとの交流会							広報		★																								
3 移住体験ツアー							広報			★			広報			★																	
4 ワークショップ ふるさとを生きろ													協議		広報		★																
5 北近畿を熟く語るシンポジウム													協議							広報			★										
6 郷土意識アンケート						設計																					とりまとめ						
7 観光客アンケート						設計		★		集計		★							★						とりまとめ								

（実施体制）

本事業は福知山市を代表とし、兵庫県丹波市及び同朝来市の3市が総務省に共同申請し、その企画と運営の主要部分を福知山公立大学が担って実施した。事業の総括的運営は3市と大学を構成員とす

る「ふるさと・もう一度会議」が主体となって関係団体との連携のもとに推進した。

(事業詳細)

①ふるさと再発見ツアー（回数3回、参加者19名）

3市の先進的・先端的地域づくりや企業活動及び人材との出会いを通じて、今まで見えていなかったふるさとの魅力や生活のありようを再発見し、ふるさととの新たな関係を作る材料を提供すべく実施した。

②中高生たちとの交流会（回数2回、参加者87名）

都会で学ぶ大学生、福知山公立大学生及び福知山市・朝来市内の中高生たち（将来の関係人口予備軍）との地域社会と都会双方の課題と可能性を話し合うべく、ワークショップ形式の交流会を実施した。

③移住体験ツアー（回数3回、参加者3名）※ 都会の移住希望者が参加・1名が定住、1名が定住検討

都市在住の学生及び社会人を対象に、実際に3市の農業や観光業などの短期のワーキングホリデイ形式の仕事を体験し、北近畿地域の実際の生活体験をすることで、北近畿地域で生活することを実感してもらい、より深い関係性をつくってもらうべく実施した。

④ふるさとを生きるワークショップ（回数2回、参加者101人）

3市在住の新たな地域づくりを進めているリーダーや地域住民とともに、北近畿地域での生活の在り方や可能性について意見やアイデアの交換を行い、この地域で生きることの意味と意義についての認識を深めるべく実施した。

⑤北近畿を熱く語るシンポジウム（回数1回、参加者140名）

北近畿の地域社会を自分がこう変えてみせるというアイデアを公募した「北近畿をいじるアイデアコンテスト」を京都大学にて実施した。また、408件の応募から選ばれた8件のアイデアを表彰するとともに、本事業で実施した各プログラムについての発表も行った。



⑥福知山市・丹波市・朝来市内の全高等学校（12校）の3年生及びその保護者を対象とする意識に関する調査

高校卒業後の人口減少の当事者となる高校3年生とその保護者を対象に、高校生の郷土に関する情報の内容、郷土への思い、卒業後のキャリアや住みたい場所等についての意識を分析・検討した。保護者にも高校生と保護者の意識の異同などについて分析・検討した。

・高校生向けアンケート配布数：1752、回収数：1394（回収率79.6%）

・保護者向けアンケート配布数：1752、回収数：333（回収率19.0%）

⑦卒業生向けアンケート

3市内の高等学校の卒業生（概ね10年及び20年）について、地元地域に対する意識を調査し、彼らが今後関係人口として地域にかかわる可能性を具現化するために重要と思われる要素を分析・検討した。

・協力を得られた高等学校（同窓会等を含む）：福知山市内の3校

・アンケート配布数：1240、回収数：137（回収率11%）

⑧観光旅行者の胴体と地域に対する関心を分析するための調査

観光客が地域に関心を持ち継続的な関係に興味を持つ契機となる要素について、関係人口の視点から分析・検討した。

・アンケート配布場所：福知山市2、丹波市1、朝来市2の観光拠点5か所

・アンケート配布数：995、回収数：244（回収率24.5%）



◇北近畿地域連携センター関連事業アンケート集計結果◇

第 1 回北近畿フューチャーセッション

アンケート集計結果

参加者数	34人
回答者数	22人
回 収 率	64%

【1】 集計資料

性別

男性	女性	未回答
12 人	9 人	1 人

年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代～
0 人	2 人	3 人	5 人	4 人	5 人	2 人	1 人

住まい

市内	市外
16 人	6 人

職業

会社員	自営業	公務員	学生	その他	未回答
2 人	0 人	10 人	0 人	9 人	1 人

【2】 この講座を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
9 人	3 人	3 人	7 人	2 人

【3】 講座を受講する際に参加しやすい曜日・時間帯はありますか。(複数回答可)

曜日

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	祝日
1 人	1 人	3 人	2 人	2 人	13 人	10 人	1 人

時間帯

午前	午後	夜	未回答
1 人	13 人	5 人	3 人

【4】 本日の講座の内容はどうでしたか。

講師 小林 憲彦氏

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
8 人	6 人	5 人	0 人	1 人	2 人

講師 田村 浩司氏

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
10 人	9 人	0 人	0 人	1 人	2 人

【5】 フューチャーセッションについて内容はどうか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
12 人	6 人	2 人	1 人	0 人	1 人

【6】 この講座を友人・知人に紹介したいですか。

紹介したい	紹介したくない	未回答
18 人	1 人	3 人

【7】 その他、ご意見ご感想等あればご自由にご記入ください。

市職員の方が少ない予算で頑張っておられることがよくわかりました。

豊岡の『とよおか歩子』を知ることができて良かったです。

第 2 回北近畿フューチャーセッション

アンケート集計結果

参加者数	31人
回答者数	28人
回 収 率	90%

【1】 集計資料

性別

男性	女性	未回答
21 人	4 人	3 人

年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代～	未回答
2 人	7 人	1 人	4 人	4 人	4 人	4 人	2 人

住まい

市内	市外	未回答
4 人	22 人	2 人

職業

会社員	自営業	公務員	学生	その他	未回答
1 人	0 人	10 人	8 人	7 人	2 人

【2】この講座を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
9人	1人	0人	9人	9人

【3】講座を受講する際に参加しやすい曜日・時間帯はありますか。(複数回答可)

曜日

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	祝日
1人	2人	1人	1人	2人	19人	12人	8人

時間帯

午前	午後	夜	未回答
2人	21人	3人	6人

【4】本日の講座の内容はどうでしたか。

講師 東 恒好氏

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
24人	4人	0人	0人	0人	0人

講師 岡山 慎氏

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
22人	5人	1人	0人	0人	0人

本日の講座のご感想

- ・タクシー業者と協議しNPO主体で動くウーバーとタクシー業者と連携をとることによって事業を展開する「やぶくる」の2つを知ることができた。
- ・地域のリアルな状況やサービスの課題点を知れた。
- ・両方とも利用実績のお話がなかったがどのくらいの利用があったのか聞きたかった。
- ・支え合い交通・やぶくるの事例が知れて良かった。
- ・近くにこんな事例があったとは新たな認識でした。

【5】フューチャーセッションについて内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
16人	10人	2人	0人	0人	0人

具体的に

- ・将来の論文や職業に繋がる良い議論ができた。
- ・話し合いがとてもスムーズに進みかつ自分たちの知り得ない情報を知ることができた。
- ・現状が色々聞けて参考になった。
- ・行政、NPOの方々、大学生など様々なステークホルダーと対話ができ非常に刺激をうけた。
- ・学生さんが一緒にいていただくとワークショップに対する参加者のストレスが少なくなって良いと思った。
- ・まとめがむずかしい。
- ・もう少し時間がほしい。
- ・課題についての認識が共有できて良かった。

【6】 この講座を友人・知人に紹介したいですか。

紹介したい	紹介したくない	未回答
23 人	1 人	4 人

【7】 その他、ご意見ご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・もっと幅広く参加者があれば良いと思う。
- ・学生の参加者があったのはとても良かった。
- ・公立大が出来てから地域で学生さんの姿をよく見るようになった。今後とも期待しています。
- ・今までモヤがかかってた地域交通の考え方を図式化できるまでスッキリさせることができました。しばらくアイデアに困らないです。

第 3 回北近畿フューチャーセッション

アンケート集計結果

参加者数	32人
回答者数	21人
回 収 率	65%

【1】 集計資料

性別

男性	女性	未回答
10 人	10 人	1 人

年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代～	未回答
0 人	0 人	0 人	4 人	3 人	7 人	6 人	1 人

住まい

市内	市外	未回答
15 人	5 人	1 人

職業

会社員	自営業	公務員	学生	その他	未回答
1 人	1 人	5 人	0 人	12 人	2 人

【2】 この講座を何でお知りになりましたか。（複数回答可）

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
7 人	0 人	0 人	10 人	4 人

【3】 講座を受講する際に参加しやすい曜日・時間帯はありますか。（複数回答可）

曜日

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	祝日
0 人	0 人	1 人	0 人	0 人	10 人	5 人	1 人

時間帯

午前	午後	夜	未回答
5 人	10 人	6 人	4 人

【4】 本日の講座の内容はどうでしたか。

講師 岸田 尚子氏

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
15 人	3 人	2 人	0 人	0 人	1 人

講師 鳥居 文子氏

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
14 人	4 人	2 人	0 人	0 人	1 人

本日の講座のご感想

- ・ 日本語教育の大切さ、ネットワークの核になれるところ。
- ・ 具体的でわかりやすかった。
- ・ 但馬地域にネットワークを広げていかれた過程をより詳しく知りたい。
- ・ あいうえお日本語教室の多彩で強力な取組に感動した。
- ・ 大変良かった。活動状況がよくわかった。
- ・ 普段知るチャンスのないにほんご教室の取組の広がりを知ることができて良かった。
- ・ 実施されているにほんご教室のことがよくわかり良かった。
- ・ 実践等ワクワクしながら聞かせていただきました。以前は外国や外国の人々と一般的(個人的)に関係が薄い思いでしたが今本当に大事なことであることを一層思いました。

【5】 フューチャーセッションについて内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
15 人	3 人	2 人	0 人	0 人	1 人

具体的に

- ・ いろいろな人の考え方がわかりとても勉強になりました。
「なるほど!」と思うことが多々ありました。
- ・ このような形で議論するチャンスをいただけて良かったです。
- ・ 時間をもう少し(30分程度)長くして欲しい。
- ・ なかなか良い発表でした。
- ・ 他市の方、学生さんの話をききながら、よい発表内容を作ることができたと思います。
- ・ 様々な方の声を聞くことができた。
- ・ やるべきこと、できることをグループ毎にディスカッションしたのは良かった。また、他の意見を聞くことも Good。
- ・ 異文化、防災について関心を深めることができた。
- ・ 切れ味がすばらしい。
- ・ 皆が意見を出したよい話し合いができた。
- ・ 各班の自分にできることすべきことを聞き少しずつ取り入れていきたいと思った。

【6】 この講座を友人・知人に紹介したいですか。

紹介したい	紹介したくない	未回答
18 人	1 人	2 人

【7】 その他、ご意見ご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・ 参加できましたことに感謝。
- ・ 大変有意義な機会をありがとうございました。
- ・ 防災訓練が楽しく“行って良かった”で終われるように工夫が必要。そうすると参加人数が増えると思う。
- ・ 非常食の試食会をしてほしかったです（外国人に）。
- ・ 時々このような催しに参加し防災のみならず外のテーマについても考える機会を持ちたい。
- ・ 澁谷先生、鈴木先生のお話をもっと聞きたい

第 4 回北近畿フューチャーセッション

アンケート集計結果

参加者数	36人
回答者数	34人
回 収 率	94%

【1】 集計資料

性別

男性	女性	未回答
25 人	7 人	2 人

年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代～	未回答
0 人	1 人	3 人	5 人	6 人	15 人	4 人	0 人

住まい

市内	市外	未回答
24 人	8 人	2 人

職業

会社員	自営業	公務員	学生	その他	未回答
4 人	7 人	11 人	0 人	10 人	2 人

【2】 この講座を何でお知りになりましたか。（複数回答可）

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他	未回答
9 人	1 人	1 人	12 人	14 人	1 人

【3】 講座を受講する際に参加しやすい曜日・時間帯はありますか。(複数回答可)

曜日

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	祝日
2 人	1 人	3 人	2 人	4 人	18 人	9 人	4 人

時間帯

午前	午後	夜	未回答
12 人	8 人	8 人	8 人

【4】 本日の講座の内容はどうでしたか。

講師 役重 眞喜子氏

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
12 人	12 人	5 人	0 人	0 人	5 人

講師 山崎 政巳氏

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
27 人	4 人	2 人	0 人	0 人	1 人

本日の講座のご感想

- ・ 具体的実践的で良かった。
- ・ もう少し時間があれば良かった。
- ・ 変わることは難しいが多様を認めていくことは重要と感じた。
- ・ 大変参考になりました。それぞれの立場での大変さ…今後の活動に活かします。
- ・ 話としては良いですが、現実には各市町により違い、都会育ちの方には田舎らしさの話を聞いたかったし最近の働き方改革により自治も変わるのでは…。
- ・ やはり住民まかせだと何もされなくなると思うので行政も関わるのが大事だと思いました。
- ・ 区の問題点は同じ内容と感じる。
- ・ 若者の活用、行動を楽しくできる企画が必要と感じる。
- ・ わかりやすく興味を持って拝聴できました。
- ・ 地域の状況がわかりやすく伝わって大変参考になりました。
- ・ “小さな〇〇” は大切なことだけれども一人ひとりの“小さな〇〇”を見つけ出してつなげることが難しく分かっていてもできないなと思いました。「地域に“変われ”といって自ら“変わらない”行政」・・・刺さりました。
- ・ すぐ隣の区なのにこんなに団体さんがあるのを知らなかった。発信の仕方を考えたいと思った。
- ・ 将来的に役員となる人材の育成のため、今から若い世代の中にそういう人材を発掘していかなければならないと強く思いましたので、若い世代に何か働きかけをしていきたいと思います。
- ・ 実践している生の声がきけてとても良かった。行政の立場としてきくと耳の痛い話もあったが一住民（行政のことをわかっている）としては難しいところや知らないことも多かったのでもとても良かった。
- ・ 着眼点を教示いただけたと思います。やはり地域愛が重要だと感じました。
- ・ 各々の活動を基にした話がとても説得力がありました。
- ・ 岩屋区の取組を共有できたのは意義があったと思います。

【5】 フューチャーセッションについて内容はどうか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
12 人	12 人	5 人	0 人	0 人	5 人

具体的に

- ・ 岩屋区の具体的な話がとても参考になりました。
- ・ 地域の負担について議論しましたが、2 地区の内容を聞くことなり、もう少し多くの地区の参加者があればと思いました。
- ・ 色んな地区の方のリアルな話がきけて良かったです。
- ・ 岩屋区の話を中心に進めていたので自分の住んでいる地域ではあまり当てはまらないことも多かった。三役がとても頑張っているため仕事の負担を減らす方法もきけたらよかったと思う。
- ・ グループの中で実際に地域の役員さんの声が聞けておもしろかった。
- ・ みなさま大変で、問題に思っておられることは同じだなと思った。同じなら小さな区で考えるにとどまらずもう少し大きい単位で考えてもいいのにとと思いました。
- ・ 日頃、思い考えていることを話せてよかったです。
- ・ 新しい地域実態を知りアイデアもよく出た。
- ・ 楽しく情報交換ができた。
- ・ 役について柔らかく考えるアイデアが必要で、その中で必要のないと思われる活動はスルーしていく、もしくは軽く扱い大切なことに重みづけることが大切
- ・ 各地区の問題や今後どうするべきか一番難しい問題だと思います。
- ・ なかなか結論が出ない難しいテーマであった。
- ・ もう少し時間があれば…。
- ・ 立場の違う意見が聞けて良かった。

【6】 この講座を友人・知人に紹介したいですか。

紹介したい	紹介したくない	未回答
26 人	0 人	8 人

【7】 その他、ご意見ご感想等あればご自由にご記入ください。

- ・ 時間がタイトだったのと、今回一回で終わるのは勿体ないと思いました。
- ・ 今日は一住民として参加しましたが、仕事で会った方も多く「行政の職員」として接していただいたので「職員の参加」とともに一住民の参加であるという意識が芽生えるような関係性をつくっていかないといけないなと感じました。本日はありがとうございました。
- ・ 世代別で同じことを考えて最後に出し合うみたいなのが楽しいと思った。(グループで話を聞いているとジェネレーションギャップを感じることも多かったのだ)
- ・ 担い手担い手といいながら…大変大変と言いながら…若い子の意見は???もっと柔軟な場があればおもしろいと思う。
- ・ 今回初めて参加しましたが大変良かったです。機会があれば又参加したいと思います。
- ・ 今日に至った日本の歴史、戦前戦後、QRQ に盗まれた日本の現代史も含む話をしないと 1970 年以後の教育を受けた人たちには理解できないのでは。
- ・ 地方の都会化してきている現状をどうするのか?行政に行わせるのも一つかも、行政につながることも合わせ自治とはなにかを問うことも必要では。
- ・ 何か動いていきます。

地域研究プロジェクト成果報告会

アンケート集計結果

参加者数	13人
回答者数	6人
回収率	46%

【1】集計資料

性別

男性	女性	未回答
6人	0人	7人

年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	未回答
2人	0人	2人	1人	1人	0人	0人	0人

住まい

市内	市外
4人	2人

職業

会社員	自営業	公務員	学生	その他	未回答
0人	0人	4人	2人	0人	0人

【2】この講座を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

チラシ	ホームページ	新聞	知人から	その他
5人	0人	0人	1人	0人

【3】講座を受講する際に参加しやすい曜日・時間帯はありますか。(複数回答可)

曜日

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	祝日
0人	0人	0人	0人	0人	6人	2人	0人

時間帯

午前	午後	夜	未回答
2人	3人	0人	1人

【4】本学、地域研究プロジェクトの7つのプロジェクトのうち印象に残ったものを教えてください。(複数回答可)

岡本教授	平野教授	神谷教授	佐藤教授	芦田教授	三好准教授	山田教授
0人	1人	3人	2人	0人	2人	2人

【5】福知山公立大学地域研究プロジェクト成果報告会について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
3人	2人	1人	0人	0人	0人

具体的に

教員の方がどんな研究をしているのか実際に見ることができて良かった。

【6】 この講座を友人・知人に紹介したいですか。

紹介したい	紹介したくない	未回答
6 人	0 人	0 人

【7】 その他、ご意見ご感想等あればご自由にご記入ください。

今回は初めての福知山公立大学が関連するイベントの参加だったが、今後も様々なイベントに参加していきたいと思った。

令和元年度 第 1 回高大連携研究会

アンケート集計結果

参加者数	20人
回答者数	19人
回 収 率	95%

【1】 集計資料

性別

男性	女性	未回答
15 人	3 人	1 人

年齢

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	未回答
0 人	2 人	5 人	8 人	3 人	0 人	0 人	1 人

住まい

福知山	市外	未回答
9 人	9 人	1 人

職業

高校教員	大学教員	公務員	学生	その他	未回答
10 人	0 人	7 人	0 人	9 人	2 人

【2】 この研究会を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

チラシ	ホームページ	SNS	知人から	その他	未回答
12 人	1 人	1 人	5 人	3 人	1 人

【3】 研究会を受講する際に参加しやすい曜日・時間帯はありますか。(複数回答可)

曜日

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	祝日	未回答
0 人	2 人	0 人	5 人	5 人	4 人	0 人	1 人	1 人

時間帯

午前	午後	夜	未回答
0 人	0 人	16 人	3 人

【4】 本日の研究会の内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
14 人	2 人	1 人	0 人	1 人	2 人

理由

- ・ 知識、情報提供をいただく時間あり、ディスカッションできる時間あり、充実した時間を過ごせました。
- ・ 学習指導要領の解説と現場のレベルのひらきが大きい。管理職がやるべきことの内容。
- ・ 現場は時間ないし忙しいし、絵に描いた餅。できるとは思わない。

【5】 この講座を友人・知人に紹介したいですか。

紹介したい	紹介したくない	未回答
17 人	0 人	2 人

【6】 今後どんな研究会があれば参加したいですか。講師案などご意見があればご記入ください。

- ・ ぜひとも北近畿エリアに広げて各地で実施していただきたい。
- ・ 各学校が事例を発表しあう機会を作してほしい。
- ・ 研究会って何を研究したいのですか？誰をターゲットにして何をどうしたいのかあまりわからない。
- ・ 来ていただいた講師の方に推薦いただいたらどうでしょうか。（数珠つなぎ）
- ・ 高大連携の在り方を考える研究会があれば参加したいです。

【7】 その他、特に印象に残った点や改善希望など、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・ 地域課題研究の行政からの話題提供について。
- ・ 「探究」は自分が自主的に行動するための一つの選択肢だということ。

令和元年度 第 2 回高大連携研究会

アンケート集計結果

参加者数	16人
回答者数	13人
回 収 率	81%

【1】 集計資料

性別

男性	女性	未回答
11 人	2 人	0 人

年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	未回答
0人	0人	5人	6人	2人	0人	0人	0人

住まい

福知山	市外	未回答
0人	12人	1人

職業

高校教員	大学教員	公務員	学生	その他	未回答
9人	0人	1人	0人	1人	2人

【2】この研究会を何でお知りになりましたか。(複数回答可)

チラシ	ホームページ	SNS	知人から	その他	未回答
6人	1人	0人	3人	3人	0人

【3】研究会を受講する際に参加しやすい曜日・時間帯はありますか。(複数回答可)

曜日

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	祝日	未回答
1人	1人	1人	2人	7人	1人	0人	0人	4人

時間帯

午前	午後	夜	未回答
1人	1人	10人	1人

【4】本日の研究会について内容はどうでしたか。

満足	やや満足	普通	やや不満	不満	未回答
11人	2人	0人	0人	0人	0人

理由

- ・知りたい情報を知ることができて良かった。
- ・滋野先生のお話。他校の様子がきけて良かったです。
- ・エビデンスに基づいた説得力のある話を聞けて良かったです。
- ・他校の教職員との交流。課題が明確になったこと。
- ・探究の道筋を知ることができた。
- ・共有と再確認ができました。

【5】この講座を友人・知人に紹介したいですか。

紹介したい	紹介したくない	未回答
13人	0人	0人

【6】今後どんな研究会があれば参加したいですか。講師案などご意見があればご記入ください。

- ・職員の意識を合せる手法のヒント。
- ・各校の総学担当者が集まってカリキュラムについて意見交流したい。
- ・実践例(具体的なテーマなど生徒がどんな風に決めたか)を発表し合える会をお願いします。

- ・小中高大の探究活動をつなぐ（知る）。

【7】 その他、特に印象に残った点や改善希望など、ご意見や感想等あればご自由にご記入ください。

- ・参加者お互いのバックグラウンドを知りたかった。
- ・「育てたい生徒像」はやはり大切。
- ・探究の活用、効果が未来を明るくしてくれそうです。
- ・探究の大切さを知ることができました。
- ・密度の濃い時間をありがとうございました。

2019年度 福知山公立大学 北近畿地域連携センター
年 次 報 告 書
2020年3月 発行

発 行 福知山公立大学 北近畿地域連携センター
〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
福知山公立大学2号館1階
TEL : 0773-24-7151 FAX : 0773-24-7152
E-mail : kita-re@fukuchiyama.ac.jp
印刷所 株式会社タカギ印刷

何 だ い

度 れ つ

で で で

も も も





 福知山公立大学

Kita-re

北近畿地域連携センター

〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370

TEL 0773-24-7151 FAX 0773-24-7152 Mail kita-re@fukuchiyama.ac.jp

<http://www.fukuchiyama.ac.jp>